

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
こどもと中国語
- 3 **中国語の学び方**
字本位の中国語
- 4 **中国語でどういう？**
最近、一連の文学書を購入した
- 5 **ことば雑記**
“同志”“先生”“师傅”“小姐”“女士”
- 6 **看图学惯用语**
絵で見る慣用語(15)
- 8 **紛らわしい文法表現**
“X比YW”と“跟X比,...”(2)
- 10 **成語の話**
漢字4字の諸相
- 12 **読者の広場**
看板や標識の翻訳で気付いたこと
“吃饭”は1語？2語？

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

こどもと中国語

日本中国語検定協会評議員・中央大学 千葉謙悟

私事で恐縮ながら、就学前のこどもが2人いる。彼らに意識して中国語を教えているわけではないが、今回はこどもと中国語に関することを2、3挙げてみたい。たとえこども向けであっても、青少年以上の学習者の参考になることが多少はあるはずである。

まず中国の友人がこどもたちに学習参考書をくれることがある。中国では“学前教育”といって就学前のこどもに先取り学習をさせることは珍しくないが、その代表は漢字である。学前教育熱は中国国内にとどまらず、華人のいるところグローバルに広がっているようだ。昔アメリカにいた時、中国系アメリカ人の友人にこどもたちをいつ寝かせているか尋ねられ8時と答えたところ、信じられないと返されて「あと1時間半は勉強させられるだろう？」と真顔で言われたことを思い出す。それはさておき、今300字を楽しく覚えられと謳うその種の参考書を見ると、意味が関連する4字が見開きで並ぶ。初めは“男女老幼”“你我他她”…とまだ簡単な字だが、最後の方は“狼豺狐鼬”“枪炮鏢靶”となかなか難しい。この難しい8字の意味とピンインを思い浮かべ、なおかつその字を含む単語を4つ挙げられるか試してみしてほしい。この本の各字の解説がそうなのである。

次に、主に寝る前に中国語の絵本を読んであげることがある。こども向けとはいえ学習者からすると文法的には意外と難しいところもある。手近な絵本からいくつか拾ってみると、①“熊多多马上要过生日了”（くまの多多はもうすぐお誕生日です）、②“多多提的水果撒了一地”（多多の提げていたフルーツは全部地面に落ちて散らばってしまいました）、③“我帮你把水果捡起来”（ぼくがフルーツを拾うのを手伝うよ）、④“小猴被邀请去参加多多的生日派对”（お猿ちゃんは多多のバースディパーティに呼ばれました）などなど。文法の要点となりうるところに下線を引いておいたが、他にも③が兼語文であること、④の“去”を日本人学習者は中国語作文の際に落としがちであることが注意を引く。絵本であっても（だからこそ）基本的な、つまり頻出する構文が使われているので、成人の学習者は焦らず文法事項を一つ一つ習得していくことが重要だろう。

最後に、以前家族で北京を訪れた際、初日の晩の北京ダックにすっかり魅了されたこどもたちはまた食べに行きたいとしきりにねだった。そこで看板を指さして“鴨”は「ダック」を表し、その字を持つ看板がある店にあると教えたところ、滞在していた前門近辺でまたたく間に十数軒を発見した。よってわが娘と息子の最初に覚えた漢字は“烤鸭”（しかも簡体字！）であり、最初に覚えた中国語も“kāoyā”である。ついでに“你好！”のような定番のあいさつもいくつか教えておいた。満腹のこどもたちが店を出る時満面の笑みで服務員に“谢谢！再见！”と叫んだのはいうまでもない。

字本位の中国語

県立広島大学 侯 仁鋒

1. “汉字”が読める力

中国語教育では、“汉字”を読む能力が求められて重要視されている。このことは「中国語検定」にも反映されている。筆記の部分において漢字の読み方の問題は、中検準4級では20問のうち5問、中検4級と3級では41問のうち10問と出題されており、量的に1/4を占めている。従ってこの部分が充分に解答できないと不合格になる可能性が高い。さて、中国語の“汉字”をどうやって効率的に読むか、その試みとして全くの“抛砖引玉”の気持ちで一つ紹介させていただきたい。

2. 字本位の中国語

ご存じの方が多いかと思う。中国では昔から「三字経」、「千字文」、「百家姓」などが子供の識字の啓蒙教育として知られている。私は1958年に小学校に入り、語文課（国語）では字の勉強からスタートしたと今も鮮明に覚えている。今はどうなっているのか、インターネットで調査してみたら、人民教育出版社が2016年に出版した新版の《语文・一年级上册》には、「人教版一年级语文上册目录 封面/前言/目录 我上学了 识字（一）1 天地人 2 金木水火土 3 口耳目 4 日月水火 5 对韵歌」のような内容があった。このように、中国語では字本位という伝統が脈々と続いていると言えよう。語は、字で組み合わせてできたものだから、字が読め、分かれば自明になるということが中国人の基本的な発想であろう。

3. 一を聞いて十を知る

一方、日本では、中国語の教科書は、語本位で編まれたものが殆どである。この中において工夫すれば、「字」の感覚で指導することが可能である。例えば、どの教科書にも“中国、日本、大学”の三語があろう。この三語を六文字にすれば“中国日本大学”となる。当然のことで読み方はそのままでは変わらないのである。この六文字の組み合わせで出来ている語は“日中、中日、本国、中学、国中、国学、大国”などがある。更に词组（フレーズ）として、“中国学、日本学、中国大、大日本、大中国、学中国、学日本、大学中国、大学日本”などが挙げられる。卑近な例で説得力はないかもしれないが、この中から二つのことが見える。一つは字が読めれば、それで出来た語はたとえまだ勉強していなくても読めるはずである。もう一つは、知っている字が多ければ認識できる語はネットのような形で広がっていくということである。しかもいずれも読めるし、理解も可能である。このように指導（勉強）すれば、「一を聞いて十を知る」という効果が期待できるのではないかと思われる。

ということはつまり、しっかり字の読み方を覚えておくことが肝心であるということである。

最近、一連の文学書を購入した

日本中国語検定協会副理事長・中京大学 張 勤

少し妙なタイトルだが、実は次のようなことを書きたかったのだ。あるグループの作家のことを調べるために、関連の文学書を、とてつもなくたくさんではないが、けっこう調べるのに足りる量のものを購入した、ということだ。中国語ならこのような意味にピッタリ合う量詞、“批”がある。

(1)最近我买了一批文学书籍。

辞書で量詞としての“批”の意味を引いてみると、《现代汉语词典》(第7版)は“用于大宗的货物或多数的人(大口の／大量の商品あるいは多数の人に用いられる)”と記述している。すなわち、“批”は量が多いという意味に重きが置かれる表現である。次の例からいずれも“批”のこのようなニュアンスが読み取れる。

(2)本月第一批援藏的医务人员已经出发。(本月チベットを援助する最初のグループの医療関係者はすでに出発した。)

(3)这一批关于教育改革方案中有一篇就是她拟订的。(これら教育改革に関する方案の中に彼女が草案したのが一つある。)

(4)财务处急需一批新计算机，以处理公司日益扩大的业务需求。(日増しに拡大する会社の業務需要に対応するために、財務処は新しいコンピューターをたくさん緊急に必要としている。)

以上の例においては、量が多いという意味の他に、まとまったというイメージがある。(2)における医療関係者はもちろんチベット援助のために組織されるものであり、(3)の“一批”が指しているのは同じ教育改革を内容とする方案であり、そして(4)のコンピューターは拡大する会社業務に対応できるものを指す。そこで量は多いが、まとまりがなければ、“批”が使えない。例えば、単に公園に多くの客がいることを表現しようとして、(5)のように言うと奇妙に聞こえるので、やはり“很多”などを使うべきであろう。もっとも(6)のように“从中国来”(中国から)というようにまとまったものを指す意味にすれば、自然な言い方になる。

(5)?今天上野生动物园里有一批游客。→今天上野生动物园有很多游客。

(6)今天上野生动物园里有一批从中国来的游客。

“批”にはすでに量が多いという意味があるが、それをさら強調して、(7)のように“一大批”ということもできる。

(7)最近他们公司收购了一大批清代的字画。(最近、彼らの会社は清の時代の書画をかなりたくさん(一度に)買収した。)

まとまりがあるということには、上の例でいうと“游客”なら中国からくる者、“字画”なら清の時代のものといった同質性の他に、同じ時に来る、同じ期間に買収するといった同時性も含まれるので、日本語に訳す時はかなり練る必要がある。

“同志”“先生”“师傅”“小姐”“女士”

日本中国語検定協会理事長 上野恵司

中国語を習い始めた半世紀の昔、他人に対する敬称に“同志”を使うと習った時、新鮮さと同時に違和感というか、なんとも言えない落ち着きのなさを覚えた。

そのうちに慣れっこになってしまったのか、のちに自分が編んだテキストにも、“李同志在这儿吗？”なんて例文を入れたりした。

文化大革命が終わる1970年代半ば頃からだろうか、“同志”ではどうもぐあいが悪くなって“先生”に改めた。

80年代になると“师傅”(shīfu)なんてのが盛んに使われるようになった。もともとは職人さんや技術者に使われたものが、男女の区別なしに広く用いられた。そのうちに一時期はブルジョア的でよくないとされた“小姐”(xiǎojiě)が、「若い女性」に限らず、広く女性一般に使われだした。買い物をする際、なかなか振り向いてくれない店員さんに、“小姐”と呼びかけたら、“唉”(āi)と機嫌よく笑顔で応じてくれた。中年の「おばさん」であった。

この“小姐”も今ははやらないらしい。“三陪小姐”(sānpéi xiǎojiě)なんてことばもあって、風俗店などでいかがわしいサービスをする女性を連想させるのだとか。レストランなどでは“服务员”(fúwùyuán)と呼びかけているが、わたくしには使えなそう。

手紙の宛名に男性なら“先生”を敬称に使うが、女性ならどうするかちょっと困る。“女士”(nǚshì)だと習ったが、どうも使いにくい。日本語の「女史」を連想するからだろうか。眼鏡を掛けていてなにやら難しい議論をふっかけてきそうな。

ある程度の社会的地位のある人には女性であっても“先生”を使ってもよいという人もいる。

“先生”には学校の先生“老师”や自分や他人の夫を指す使い方もあるが、敬称としての使い方には、2006年6月刊の第5版までの《现代汉语词典》は“对知识分子和一定身份的成年男子的尊称”(インテリや一定の身分の成年男子に対する敬称)としていたのが、2012年6月刊の第6版からは上の説明の後に、“有时也尊称有身份、有声誉的女性”(時には身分や声望を有する女性に対する敬称としても)という説明を補っている。

この“先生”について先頃111歳の高齢をもって亡くなった言語学者の周有光氏が、“女士不宜称先生”と女性に使うべきでないと猛反対していたのを思いだす。理由は“混淆性别”(性別の混同)、“重男轻女”(男尊女卑)、それに《现代汉语词典》に女性に用いるとは書いてない、というものであった。出所は失念したが、確か2003年頃の文章であったから、《现代汉语词典》の新しい版は御覧になっていなかったであろう。

絵で見る慣用語 (15)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



睜只眼，闭只眼 zhēng zhī yǎn, bì zhī yǎn
片方の目を開け，片方の目を閉じる；
見て見ぬふりをする，大目に見る。深
く追求しないでほどほどで済ませる。
“睜一只眼，闭一只眼” (zhēng yī zhī
yǎn, bì yī zhī yǎn) とも。



装面子 zhuāng miànzi
体裁を繕う；うわべ・外観を飾る，見
えを張る。
年轻人没钱还装面子买豪车太不应该
了。若者がお金もないのに見えを張っ
て豪華な車を買うのは，まったくどう
かしている。



走过场 zǒu guòchǎng
芝居で役者が舞台を素通りしてすぐ下
がる；適当にごまかす，お茶を濁す。
那不过是走过场！そんなやり方は見せ
かけのごまかしに過ぎないではないか。



抓把柄 zhuā bǎibǐng
人の弱みを握る；泣き所を押さえる，
しっぽをつかむ。“把柄”は器物の柄
や握り。転じて，弱点，隙。
抓住他的把柄。彼のしっぽをつかんだ。
让人抓住了把柄。人に弱みを握られた。



装样子 zhuāng yàngzi
ふりをする；もっともらしくふるまう。
“装模作样” (zhuāngmú-zuòyàng) とも。
别装样子，不懂就承认不懂。もったい
ぶらないで，わからないならわからない
と白状しなさい。



走后门(儿) zǒu hòumén(r)
裏口から出入りする；コネを使う。
走后门入学。裏口入学する。
走后门就职。コネを使って就職する。



走弯路 zǒu wānlù

回り道をする；（方法を誤ったりうっかりしたミスを犯したりして）時間や金銭を無駄にする。

尽量少走弯路。できる限り無駄な回り道を避ける。



坐交椅 zuò jiāoyǐ

指導的地位に就く。“交椅”は肘掛け椅子；役職や地位のひゆ。

他已坐上了银行总裁的交椅。彼はすでに銀行総裁の地位に就いた。

坐第一把交椅。第一人者になる。



做圈套 zuò quāntào

罾(わな)をかける；策を弄(ろう)して陥れる。“设圈套”(shè quāntào)とも。暗中做圈套，让人上当受骗。こっそりと罾を仕掛けて、人をだましべてんにかける。



走着瞧 zǒuzhe qiáo

今に見ておれ；勝負事の結果や事の成り行きは最後になってみないとわからないという意。

你不信，咱们就走着瞧。君が信じないなら、どうなるか見てみようじゃないか。



坐冷板凳 zuò lěngbǎndèng

冷たい腰掛けに座る；ベンチを暖める，冷や飯を食う。長い間閑職に就いたままである。

这些年他一直坐冷板凳。ここ数年，彼は冷や飯を食わされたままである。



做手脚 zuò shǒujiǎo

小細工をする；ひそかに奸計を巡らす。公事公办，谁也不准做手脚。原則に従って処理すべきで，誰も細工を弄(ろう)して不正を働いてはならない。

“X比YW”と“跟X比,…”(2)

日本中国語検定協会理事・文京学院大学 魯 曉琨

前回は“X比YW”という文型の構成条件をまとめましたが、“跟X比,…”という比較文については展開しませんでした。今回は、“X比YW”と比較しながら、“跟X比,…”という比較文の使用条件を解明しようと思います。なお、“跟”の代わりに“和”“与”も使われ、“跟X比,…”には“跟X比起来,…”“跟X相比,…”という形式もあります。

“X比YW”は主体Xと対象Yが構文の中で出現できる位置が限定され、目的語(動作の受け手)の比較を表現することができないため、(1)は“X比YW”と訳すことができず、“跟X比,…”と訳します。前回はこのような両者の違いを明らかにしました。

(1)私はリンゴよりミカンが好きだ。

*我比苹果更喜欢吃橘子。

○跟苹果比,我更喜欢吃橘子。

一方、“跟X比,…”は受け手の比較のみならず、“X比YW”と同じように、動作の仕手の比較を表現することもできます。例えば、

(2)私は兄よりミカンが好きだ。

○我比哥哥更喜欢吃橘子。

○跟哥哥比,我更喜欢吃橘子。

そのため、“跟X比,…”は二義性となる場合もあります。中川氏が挙げられた二義性の日本語は両義とも“跟X比,…”と訳すことができます。

(3)おじいちゃんはお父さんよりも私を可愛がっている。

意味1: おじいちゃんは、お父さんが私を可愛がるより、もっと私を可愛がってくれる。

爷爷比爸爸更疼我。

跟爸爸比,爷爷更疼我。

意味2: おじいちゃんは、お父さんを可愛がるより、もっと私を可愛がる。

*爷爷比爸爸更疼我。

跟爸爸比,爷爷更疼我。

「お父さん」を仕手としても受け手としても解釈できます。仕手として解釈するときは意味1となり、受け手として解釈するときは意味2となります。実際の会話では、意味1では、“爷爷”に、意味2では“我”にストレスを置いて発音します。

“跟X比,…”の働きは以上で述べたことに限りません。“X比YW”は基本文として表現できる範囲が限られており、より複雑な比較表現は“跟X比,…”が担っています。以下のケースが挙げられます。

1 “X比YW”のWとなる動詞は限定されているが，“跟X比，…”はこの制限を受けません。

“X比YW”のWはつまり述語は形容詞であるか、または一部の動詞です。Wとなれる動詞は主に数量変化を表す動詞（増加、減少、提前、提高、扩大、缩小、缩短、延长等），程度副詞の修飾を受ける動詞（想、怕、爱、恨、疼、关心、欢迎、了解、明白、支持、信任、吸引、遵守、注意、讲究、要面子、伤脑筋、有本事、有风度等）です。“跟X比，…”の述語はこのような制限はありません。例えば，

(4)跟语言相比，文字有很大的保守性。

（言語と比べると，文字の方はかなり保守的だ。）

(5)与掌权者和精英相比，普通公民处于弱势地位。

（権力者やエリートと比べると，一般の民衆は弱い立場に置かれている。）

2 “X比YW”のWの差異の程度に関する表現は限定されているが，“跟X比，…”は幅広く表現できます。

“X比YW”のWの差異の程度については，三種の表現があります。

①「X比YW+一点儿/一些」哥哥比弟弟高一点儿/一些。

②「X比YW+得多/多了」他的汉语比我好得多/多了。

③「X比YW+具体量」今年比去年增加了一倍。

“跟X比，…”はWの差異の程度をわりと自由に表現できます。例えば，

(6)跟英语相比，日语的研究比较少。

（英語と比べると，日本語の研究は比較的少ない。）

(7)那时候和其他小朋友比起来,我的懒觉实在太少了。

（あの頃，他の子どもと比べると，私の寝坊時間は本当に少なすぎたのだ。）

3 “X比YW”のW（述語）は簡単な構造のみですが，“跟X比，…”の述語は広範囲です。例えば，

(8)我的想法跟你比起来，显得很不高明了。

（私の考え方はあなたと比べると，かなり遅れているように見える。）

(9)与张老师相比，他在心理上、年龄上都占了很大优势。

（張先生と比べると，彼は心理においても年齢においても優位を占めている。）

4 “X比YW”は“吗”疑問文や差異の程度を尋ねる疑問詞疑問文しか構成できないが，“跟X比，…”は下記のような疑問文を構成することもできます。

(10)你的剑道跟王先生比，谁更厉害？

（あなたと王さんと，剣道はどちらが強いのですか。）

(11)跟中国的接待场面比，他们的接待是不是过于冷清了？

（中国の接待場面と比べると，彼らの接待は寂しすぎませんか。）

要するに，1－4に挙げた“跟X比，…”は“X比YW”に変換することができません。

参考文献

中川正之（1991）「私はブタよりも白菜が好き」『中国語学習Q&A101』：133-136

漢字4字の諸相

日本中国語検定協会監事・日本大学(非) 大塚秀明

中国語では漢字が4つ並んでいると2+2と理解する。表現する時も前後、あるいは上下がバランスよく、さらには対になるように工夫する。その精華が4字成語といえる。ここでは成語も含めた「漢字4字」の諸相を見る。

日本語にもなっている“一衣帯水”yīyīdàishuǐは有名な例外である。『広辞苑』には「いちいたい-すい」とあるが、むしろ「いち-いたい-すい」とすべきであろう。また「五里霧中」も同書に「ごり-む-ちゅう」とあるが、中国語の辞書には“五里霧”wǔlǐwùの項目があり、例として“如墮～中”とある。近年の話題に“小心地滑”がある。道路工事や床面清掃などに見かける言葉である。「注意して滑れ」ではなく、2+2で理解しなければならない。前世紀の思い出に“新兵马强”という映画の題名がある。「新しき兵馬強し」と訳したが“马强”は主人公の名前であった。

今世紀の中国では跡形もなくなってしまったが“上知下愚”が「上は知があり、下は愚か」と解釈されていた。当時の風潮(批林批孔)に合わせた理解である。出典は《论语》Lúnyǔで、前後があり“唯～不移”(とびきりの賢い者とどん尻の愚か者とは変わらない: 岩波文庫訳)からの断章取義に曲解が加わった例である。2+2は冒頭の通りだが、修飾被修飾を主語述語と異分析したのである。

異分析が可能になる要因は中国語に形態変化がないことである。現代語では“人定胜天”réndìngshèngtiānは「人は必ず自然に勝つ」などとも解されるが、本来は「人定まれば…」であり、対称ではないが2+2という言葉であった。筆者と同世代(干支が一回り違うが)の楊逸氏の成語エッセイ『中国ことわざばなし』にも言及がある。この成語から、大慶油田の英雄王進喜や人民公社の農民がスクラムを組んで洪水を防ぎ作物を守る《**龙江颂**》などが出てくるのは我らが世代であろうか。要は“定”が動詞から副詞に解されたのである。“定”の品詞には動詞と副詞があるが、繆天華主編《**成語典**》(台湾復興書局)では「人定まれば必ず天に勝つ」と解釈して、動詞と副詞という二品詞を一つに融合し解釈している。

4字成語の構造を考える時に訓読がある。東方書店の『中国成語辞典』は編者・牛島徳次氏の見識であろう、訓読を付している。4字を^{スケルトン}骸骨にして、その仕組みを示しているが、読めない成語は音読する。“翻云覆雨”fānyún-fùyǔは「くるくる態度を変える」の意で、2+2、「雲を翻し雨を覆す」と読めそうだが、同書では「ホンウン フクウ」としている。上記のとおり「くもをひるがえし…」と動詞+名詞で読むと意味が取れないからである。出典は杜甫の詩“翻手作云覆手雨”(手のひらを上に向けると雲となり、下を向けると雨となる)であり、7字から取った4字で全体の意味を表した。4字に収斂された言葉は学習しないと理解できないし、使用できない。成語に限らず、“学习学习再学习”である。

看板や標識の翻訳で気付いたこと

大橋志華

日本では、開催まで2年を切った2020年東京オリンピックのためにさまざまな準備が進められており、一例として街の看板や標識の整備が挙げられます。以前に比べ日本語とともに英語・中国語・韓国語などの併記が多く見られるようになりました。本来、看板や標識は意味さえ伝われば目的が達成したと考えて良さそうですが、少し工夫すれば、見る人に親近感を覚えていただけるのではないかと思います。

ここで取り上げてみたいのは、友人が東京の台場を訪れたとき目に触れた一枚の看板です。日本語原文は下記のようになっています。

～国指定史跡～ 台場公園（第三台場）

1853年、ペリーで知られる黒船の来航に備えて江戸幕府が品川沖に築いた砲台跡地です。

1926年には「品川台場」として国の史跡に指定されました。

公園内は青々とした芝生が茂っており、レインボーブリッジを最も近くで見ることが出来る穴場スポット。春は桜の名所となります。

お台場に遊びに来た際には、歴史に触れあえる「台場公園」へぜひ足を運んでみて下さい。

台場公園はあちら ⇒

日本語の下に英語と中国語が記されていて、中国語訳は次のようになっています。

～国家指定史迹～「台场公园」

1853年、有個叫佩里趁着黒船来到日本江戸幕府、构成現在品川沖砲台古迹。

1926年、「品川台场」被国家指定为名胜古迹。

公园内青青的草坪、「彩虹大桥」附近最能看到的好地方。

春天時櫻花成为风景名胜。

无论如何试着来到触及拌历史的「台场公园」。

「台场公园」那边 ⇒

意味の伝達は一応できていますが、誤字・誤訳・句読点の間違いなど、残念な箇所が幾つかあります。見る人に違和感なく読んでいただき、親近感を覚えていただくために、そして東京、一步進んで日本全体のイメージアップにつながればと思い、あえて下記のようにやや贅沢な助言をさせていただきたいと思います。

中国語訳には、漢字の簡体字に繁体字の「個」「現」「櫻」が混ざっています。意味の伝達には差し支えませんが、簡体字なら簡体字に統一したほうがよいと思います。「砲台」の「砲」も現代中国語では火偏の“炮”が普通です。句読点の面においては、現代中国語として馴染まない「、」（並列関係の場合に使われます）や「。」が使われています。気を付けて使い分けていただけると文章全体のイメージが随分違ってきます。誤訳についてですが、原文の意味を正確に理解できるかどうかが重

要なポイントになりますが、「品川沖」が日本語のままになっています。

上記を念頭に置いて翻訳の一例を挙げると、次のようになります。簡単明瞭で読む人に翻訳臭を感じさせないのが要領の一つです。

～国家指定史迹～ 台场公园（第三炮台）

这里是1853年江戸幕府为抵御佩里的黑船到来，而在品川海面建筑炮台的遗址。

1926年，被指定为国家级历史遗迹，命名为“品川台场”。

公园的草坪里绿草茂密丛生，这里是眺望“彩虹大桥”的最近最佳地点。

春天，这里是赏樱的有名景点。

如果您来台场游玩，请一定来“台场公园”看看，这里您可以实地了解历史。

台场公园 ⇒

看板や標識類の翻訳は、大抵の場合、プロの翻訳者ではなく、語学の知識のあるボランティアが行っているのではないかと推測されます。ボランティアの方に私の贅沢な助言を読んでもいただくと有り難く思います。

最後の一言ですが、「⇒」があれば方向の指示が自明になっています。従って、「こちら」を“那边”に訳す必要はなく、読む人に違和感を覚えさせる恐れのある直訳は割愛したほうがよいと思います。

“吃饭”は1語？2語？

『中国語の環』編集室

問：中検の解説書では“吃饭”のピンイン表記が“chī fàn”と2語に分けられています。多くの辞書や教科書では“chīfàn”または“chī // fàn”の1語になっています。2語に分けなければならない理由はどこにあるのですか。

答：確かに“吃饭”は「ごはんを食べる」「食事をする」というひとまとまりの単語とみなしたほうがわかりやすい一面があります。“唱歌”（歌を歌う），“看书”（本を読む），“刮风”（風が吹く），“下雨”（雨が降る）なども同様です。

けれども，“吃饭”にしても“唱歌”にしても，“吃”という動詞と“饭”という名詞（目的語），あるいは“唱”という動詞と“歌”という名詞（目的語）の単純な組み合わせに過ぎません。“刮风”にしても“下雨”にしても同じことが言えます。こういう単純な組み合わせは単語とみなすよりも連語（フレーズ）として2語扱いするのが適当です。

ただし，“吃饭”には少々やっかいな問題があり，協会が出題や解説に当たって拠り所としている《现代汉语词典》も動詞として【吃饭】chī // fànという見出しを立てています。けれども，その解説をよく読むと，“指生活或生存”（暮らしを立てること，あるいは生きていくことを指す）とあって，例文も“靠打猎～”（狩猟をして暮らしを立てる）とし，わざわざ“以打猎为生”と注記しています。こういう原義から派生した用法については1語とみなしたほうが，説明しやすいようです。